

18-13 授業解題

島名：グローバル・イシュー

教科（領域）：社会科（公民）

単元（教材）：「再生可能エネルギーの可能性とその課題」

対象：附属京都小中学校 9年 B組

授業者：和賀 圭史先生（社会科）

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

エネルギー問題は、持続可能な社会づくりのために重要な課題である。本授業では日本の置かれた地理的条件を考慮しながら、様々なエネルギーをどのように組み合わせるのがよいかというエネルギー・ミックスについて、生徒たちが実際にグループにわかれて、水力、火力、エネルギーの配分の在り方を議論した。

生徒たちは日本の国土の特徴や再生可能エネルギーの短所と長所を理解した上で、様々なデータの分析を踏まえて、エネルギー政策の在り方について考えることが求められた。

エネルギー問題について、自分事として引き受けるとともに、多面的、多角的に考えることができた。化石燃料のほとんどを海外からの輸入に頼る日本は、エネルギー問題は外交問題とも直結する問題であるため、単なる国内問題とは異なる視点から考えることができたようだ。

また、グループで議論しながらグループとしての意見をまとめることを通して、意見の異なる人々との協働に求められる力についても養うことができた。意見を言うときには必ず根拠をつけて意見を述べるように指示されていたことが、有効に機能していた。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発にむけて

日本の置かれた地理的条件を考慮しながらエネルギーミックスについて考えるということで、生徒自身にとってもリアルな課題として取り組むことができた。ただし、エネルギー問題のグローバルな課題としての側面については十分に取りあげることができなかった点が惜しまれる。また、あまりにリアルな課題であったため、ないものねだりではあるが、多くのグループの提案は非常に現実的なものになりがちであった。例えば、地理的条件を重視するグループ、再生可能性を重視するグループ、経済性を重視するグループ、安定性を重視するグループなどにわかれて、ジグソー学習やディベートを行うなどすると論点を明確にした議論を行うことができたかもしれない。